

嘖然として言葉がないと云えばいいのだろうか？愛知県日進市の花火大会で、福島県川俣町の煙火製造工場製の花火の打ち上げが中止された。これに類する風評被害は枚挙に暇がない位だ。

最近の報道だけ見ても、岩手県陸前高田市の被災松を成田山新勝寺のお焚き上げで祈願成就の護摩木と共に焚かれる。放射能は検出されなかったと発表しての措置である。



高田松原の松を巡っては、京都五山の送り火の「大文字焼き」で燃やす計画だったが、市民からの抗議があって中止、中止に対する抗議があって受け入れを表明するも薪の表面から放射性セシウムが検出されたため再び使用を断念するという二転三転した。

つい先日には、在京ドイツ大使館職員が福島第一原発の事故による放射能汚染を懸念して日本への赴任を希望せず、大使館業務に支障を来しているという。玄葉外相は非常に残念と述べ、風評被害対策を強化と述べたと報道された。(9月6日)

これ以外にも、福島ナンバーの車両乗り入れを拒否したとか、福島からの転入児童へのいじめ問題、農・水産物の購入控えや瓦礫受入れ拒否等があった。最近では産地偽装まであると云う。

①市民に対する正確な啓蒙普及教育こそ肝要

放射能の半減期や薪や花火に付着していたとしてもそれらは拡散し、人畜 無害の程度に希薄化される。自然放射能を浴びるのと同程度であり、何ら問題とするに至らないことをしっかりと教育することが肝要だ。

勿論、目に見えぬ放射能なるが故に、不安が付きまとうのは致し方ないとしても、極端に不安がる必要はあるまい。しっかり検査体制を構築しておけば良い。

国家として、放射能に対する国民教育を確実に行うことが大事だ。怖さと同時にしっかり管理すれば安全であることも教育する必要がある。

② ノイジー・マイノリティ (noisy minority 「声高な少数派」) に事実や正確な情報を説明して納得させる努力をするべきであり、行政等が右顧左眄してはならない。時に毅然として対応すべきだ。彼等はただ感情的に反応しているだけだ。不正確な情報に振り回

されて居る者が多いのではないかと思える。サイレント・マジョリティは常識派だと思うが如何？

③「絆」や「頑張ろう東北」は、似非か？

口では絆とか共に頑張ろうと云いながら、神経を逆なでするような事象が度々起きる。日本では苦しみを分かち合う精神が希薄化しつつあるのか？

④ 国はこのような風評被害に如何に取り組んでいるのか見えてこない。残念なことだ。国すらが及び腰か？国家としての責任放棄ではないのか？HPでは確認できない。個別事案だからというのか、官僚得意の担当ではないからと云いたいのか？政治主導を云うならば政府が率先して対応すべきだが・・・